

院内フォーミュラリワーキンググループ

【メンバー】

医師（診療部長、各専門領域医師）、薬剤師、オブザーバー（卸業者）

【院内フォーミュラリの目的】

最新のエビデンスに基づき有効性、安全性に加え経済性も踏まえて、最適と判断された採用医薬品の使用方針（院内フォーミュラリ）を作成することで、患者に良質な薬物療法を提供することを目的としています。

また、フォーミュラリの導入により薬剤費の適正化を行い、医療経済への効果を期待しています。

【活動内容と薬剤師の役割】

院内フォーミュラリワーキンググループは月に1回カンファレンスを開催し、院内フォーミュラリの策定に取り組んでいます。またエビデンスレベルの低い採用医薬品を抽出し、院内採用から削除し、採用品目数の適正化を行っています。さらに、市場されている後発品の特徴を検討し、流通状況を確認したうえで、積極的に後発品採用への働きかけを行っています。

このように病院薬剤師は院内で使用する医薬品の管理に多方面から携わり、重要な役割を果たしています。また、院内フォーミュラリの公表により、専門領域外の医師における診療の一助となり、良質な薬物療法の提供につながっています。

【院内フォーミュラリ】

2023年10月現在

- ・抗インフルエンザウイルス薬
- ・PPI・P-CAB
- ・RAS 阻害薬
- ・HMG-CoA 還元酵素阻害薬
- ・抗ヒスタミン薬
- ・カルシウム拮抗薬
- ・DPP-4 阻害薬
- ・SGLT-2 阻害薬
- ・高カリウム血症治療薬
- ・骨粗鬆症治療薬